



ウマの分娩シミュレーション模型

ウマの分娩シミュレーション模型

- 1. ウマの分娩シミュレーション模型.....3
 - 1.1 はじめに 3
 - 1.2 ウマのボディ..... 3
 - 1.3 産道..... 3
 - 1.4 会陰部パネルユニット 3
 - 1.5 子ウマサポートシステム 4
 - 1.6 ウマの尾 4
 - 1.7 子ウマの牽引 5
 - 1.8 保管 5
 - 1.9 お手入れ..... 5
- 2. 子ウマのシミュレーション模型.....5
 - 2.1 使い方と使用上の注意..... 5
 - 2.2 保証..... 6
- 3. ウマの経鼻胃挿管・静脈穿刺・筋肉注射シミュレーション模型..... 7
 - 3.1 構成 7
 - 3.2 模型の取り付け 7
 - 3.3 頸部 7
 - 3.4 静脈 8
 - 3.5 皮膚カバー 8
- 4. スタンド..... 9
 - 4.1 頸部 9
 - 4.2 スタンド 9
- お問い合わせ先 10

ウマの分娩シミュレーション模型

1. ウマの分娩シミュレーション模型

1.1 はじめに

本説明書は、ウマの分娩シミュレーション模型のケアとメンテナンスについて記載しています。末永くお使いいただくために、本誌の内容に従ってケア・メンテナンスをしていただきますようお願いいたします。付属する子ウマの取り扱いについては、別の資料で解説いたします。

1.2 ウマのボディ

この模型は全て手作業で作られているので、模型によっては形状・仕上がりなどに若干の違いが生じる可能性があります。ウシのボディの素材にはエポキシ樹脂を含浸させたグラスファイバーを使用しています。この素材は、耐久性に優れ、環境に優しく、使用時および硬化過程での安全性も確保されています。

耐UV性（紫外線耐性）はありますが、高温に弱く変形する恐れがありますので、暖房のそばや、直射日光の下に長期間置かないようにしてください。高温により変形した場合、修復できる場合がございますので当社までご連絡ください。この模型は屋内専用です。お手入れには、中性洗剤と水をご使用ください。刺激の強い溶剤や高圧洗浄機の使用、硬いものでのこする行為は避けてください。



1.3 産道

産道は、骨盤と膨張式の直腸で構成されています。

膨張式の直腸とは骨盤は、取り外すことが可能ですが、骨盤は1本のボルトで支持部に固定されているため、このボルトを外す必要があります。直腸を任意の硬さまで膨らませることで、直腸筋の圧力を再現できます。膨らませる際は、必ず付属のハンドポンプを使用してください。空気の入れすぎは、直腸の破裂や骨盤のゆがみを引き起こす恐れがあります。

1.4 会陰部パネルユニット

会陰部パネルユニットは、柔軟性のある会陰部パネルと、耐久性のある硬質フレームで構成されています。

柔らかい会陰部パネルは、柔軟性と耐久性を考慮して設計されており、シミュレーションの目的に合わせて大きく開いた陰門や肛門を備えています。会陰部は使用による消耗や裂けることがあります。市販のシリコン用接着剤で補修できます。裂け目が生じた場合は、速やかに補修してください。接着の際には、損傷部分をアルコール（イソプロパノール）で汚れや油分をしっかりと拭き取ってから、接着剤を塗布し、裂け目を接着させてから完全に硬化するまで使用を避けてください。適切に接着すれば、使用上十分な強度が得られます。パネルの寿命は使用頻度の影響を受け、パネルの交換が必要になる場合があります。会陰部パネルユニットの硬質フレーム部は、ウマの内部に収まり、プラスチック製のターンロックで所定の位置に固定されています。

会陰部パネルユニットの取り外しと分解

- ・まず骨盤を取り外します。骨盤は1本のボルトでボディ腹側を横切る支持部に固定されているため、このボルトを外せば、骨盤が取り外せます。
- ・会陰部パネルユニットの4隅を固定しているツイストロックを回してフリーの位置にします。
- ・会陰部パネルユニット全体を慎重に手前に動かして、取り外します。
- ・会陰部パネルを硬質フレームに固定している留め具を外し、会陰部パネルユニットを分解します。

会陰部パネルは交換することで、特定の演習に適切なパネルに切り替えることができます。子ウマのシミュレーション模型と併用する場合、またはその部分を触診する際は、水溶性の潤滑剤を使用してください。ウマのへそ付近にある小さな穴は、余分な潤滑液を排出するためのものです。この排水口は、潤滑液が乾燥して詰まる可能性があるため、定期的に点検して詰まりがないか確認してください。



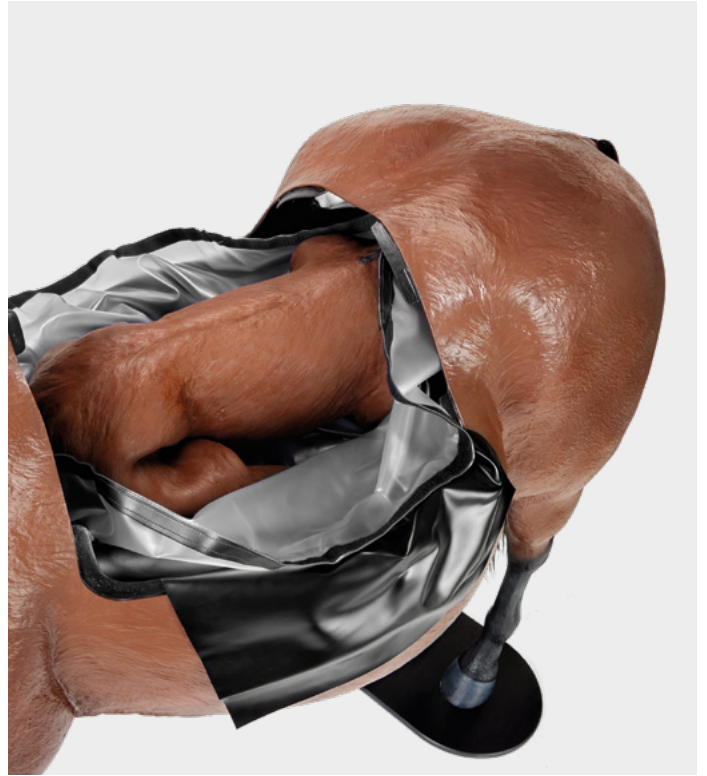
ウマの分娩シミュレーション模型

1.5 子ウマサポートシステム

膨張式直腸は、1つの大きな下部チャンバーと2つの小さなサイドチャンバーで構成されており、それぞれの頭側端にあるバルブを介して個別に膨張します。子ウマのシミュレーション模型を摩擦から保護するために、サイドチャンバーには、ハッチ開口部の端に掛けるビニール製のフラップも取り付けられています。子ウマのシミュレーション模型を胴体内の所定の位置に設置したら、これらのフラップをウマの胴体内部に折り込み、ハッチを取り付けることができます。膨張式直腸は、摩擦だけで所定の位置に保持されており、簡単に取り外すことができます。

付属のハンドポンプで膨張具合を調整することができます。損傷を避けるために、必ず付属のハンドポンプのみを使用してください。

半透明のビニール製の袋は、子ウマと潤滑剤を入れるための子宮を表しています。子宮は、柔らかい会陰部パネルと同じ留め具を介して、会陰部パネルユニットに取り付けられています。背側には子ウマを収めるための開口部があり、開口部は面ファスナーで閉じることができます。ハトメとクリップ付きの短いゴム紐により、胴体部中央・背側・隔壁に固定されており、分娩演習中の子宮の脱出を防いでいます。子宮内デモンストレーション、牽引、および子ウマを子宮内に挿入する際の自由な動きを確保するため、適切な量の水性潤滑剤が必要です。



注記: 構成部品の損傷を避けるため、ウマの会陰部パネルと子ウマには、適量の水溶性潤滑剤を塗布してください。希釈したグリセリンベースの液体石鹸も、産科用潤滑剤と同様の効果が得られます。施術者は生きた動物に処置を行うのと同様に、適切な手袋を着用してください。

1.6 ウマの尾

ウマの尾は、中央のケーブルコアとその上の合成繊維で構成されています。尾はねじ付きロッドを介してウマの胴体に取り付けられており、取り外しの際には、尾の付け根にある内部のスチールコアをしっかりと握り、反時計回りに回して尾全体を緩めて、取り外してください。使用中に尾が緩んだり、再取り付けが必要になったりした場合は、時計回りに回して、固定してください。過度な締め付けは故障の原因となりますのでご注意ください。尾は指導補助として巻き付けたり縛ったりできますが、実際の馬の尾として機能するものではなく、主に外観を目的としています。



ウマの分娩シミュレーション模型

1.7 子ウマの牽引

ウマの分娩シミュレーション模型には、改良されたドクター・フランクの胎児牽引器とドロップマットが付属しています。牽引器のジャッキベースには、ウマの分娩シミュレーション模型の表面の塗装や質感を損傷しないように、緩衝材が追加されています。子ウマのシミュレーション模型を取り出す際には、実際の分娩時と同様の手法で牽引器を使用してください。他の形式の牽引器を使用すると、分娩シミュレーション模型の表面に損傷を与える可能性があります。

子ウマの落下に備えて、分娩シミュレーション模型の真後ろにマットを配置してください。損傷を防ぐため、いかなる手技・手順であっても必ずマットを使用してください。

1.8 保管

直射日光、高温多湿を避け、屋内に保管してください。膨張式直腸が適切に膨らんでいる場合に限り、子ウマのシミュレーション模型を分娩シミュレーション模型中に保管することが可能です。ただし、輸送時は、必ず子ウマを取り出し、付属のキャリーバッグまたは同様の容器に入れてください。

1.9 お手入れ

分娩シミュレーション模型の本体とその大型部品の洗浄には、中性洗剤と低水圧の洗浄機が適しています。刺激の強い溶剤や研磨剤は使用しないでください。分娩シミュレーション模型はアクリルラテックス塗料とコーティングで塗装されており、使用による剥がれや損傷が発生した場合は補修が可能です。多くの部品は損傷や故障が生じてても容易に交換または修理できます。

2. 子ウマのシミュレーション模型

2.1 使い方と使用上の注意

VSIは、様々な難産体位とそれに対する処置の指導とデモンストレーションを支援するために、この子ウマのシミュレーション模型を開発しました。最高レベルの耐久性、柔軟性、自然な動きを備えたシミュレーターの開発には、膨大な研究と試験が費やされました。生物学的特性に忠実な製品を実現するため、VSIは柔らかい皮膚と可動式骨格を採用しており、取り扱いには注意と監督が必要です。子ウマのシミュレーション模型は、テーブル上でのデモンストレーションまたは互換性のあるウマの分娩シミュレーション模型とのみ使用してください。いかなる場合も、他社製シミュレーターと併用しないでください。

製造上の欠陥に対しては保証を提供しますが、誤用や推奨外の取り扱いによる損傷に対しては保証されません。模型は重く、繊細な性質を持っているため、本物の動物と同様に丁寧に扱う必要があります。子ウマのシミュレーション模型を長期間ご使用いただけるよう、本説明書の案内をご確認ください。

子ウマのシミュレーション模型はテーブル上でのデモンストレーションもしくはウマの分娩シミュレーション模型との併用にのみ対応しています。他のシミュレーターは子ウマのシミュレーション模型に損傷を与える可能性があるため使用しないでください。子ウマをウマの胴体に収める際には、適量の潤滑剤を塗布してください。子ウマのシミュレーション模型は、脚にチェーンをかけたり、牽引器で引っ張ったりする指導用に設計されていますが、過度な牽引負荷、高いところからの落下には対応しておりません。このような誤った使用、および不適切な取り扱いは、皮膚、蹄、および骨格に損傷を引き起こす可能性があります。



注記:ウマの分娩シミュレーション模型および子宮袋と併用する場合、子ウマ本体、子宮袋内部、会陰パネルには適量の水性潤滑剤を使用してください。摩擦を軽減することで、柔らかい皮膚の損傷リスクを軽減します。

ウマの分娩シミュレーション模型

子ウマを落とす危険性がある場合には、必ず付属のフロアマットを使用してください。フロアマットを使用しない場合、子ウマの不意な落下に備えてクッション性のある床でトレーニングを行ってください。ヘッドスネアを使用する際には、VSIの柔らかいサポートパーツのみを使用してください。他のスネアは損傷を引き起こす可能性があります。子ウマの尾や耳をつかんで持ち上げることは絶対に避けてください。損傷の原因となります。

子ウマの皮膚はシリコンで構成されており、接着が必要な場合はシリコン用接着剤を使用してください。損傷した部分を消毒用アルコールできれいにしてから接着剤を塗布します。刺激の強い化学物質や溶剤は絶対に使用しないでください。接着剤が完全に硬化するまで使用しないでください。損傷拡大を防ぐため、破損部は見つけ次第すぐに修復してください。

一般的な清掃には、子ウマ全体を低水圧の洗浄機で洗うか、中性洗剤と水、柔らかい布でこすり洗うことができますが、水に浸さないでください。皮膚に裂け目がある場合は、水が体内に入らないように注意する必要があります。模型を全体的に洗浄する場合は、修復箇所が完全に硬化していることを確認してください。

子ウマは、ウマの分娩シミュレーション模型の中に収め、適切に膨張させた、エアサポートシステムのチャンバーで支えられた状態で保管するのが最良です。それ以外の場合は、付属の収納バッグへの保管を推奨します。他の方法で子ウマを保管する場合は、クッション付きのカバーを使用する必要があります。硬い表面に長時間置かれると、柔らかい皮膚は、子ウマの重さで永久的な跡がつく可能性があります。子ウマの皮膚はややべたつく性質があり、埃やその他の粒子がつきやすいため、使用しないときはカバーをしてください。

VSIは、製品のあらゆる側面を改善し、最適な教育用・インタラクティブツールを作るべき、技術・設計・素材の研究開発を継続しています。今後の改善のために、皆様からのフィードバックやご提案をお待ちしております。

2.2 保証

VSIは、この模型の設計と開発にかなりの時間、エネルギー、およびリソースを投資してきました。実際に長期間使用することで、その機能性、耐久性、および要件を決定しています。私たちは、VSIとエンドユーザーの両方に最善を尽くすように、価格設定、購入、および保証ガイドラインを作成し、情報に基づいた購入決定を支援しています。

子ウマのシミュレーション模型およびウマの分娩シミュレーション模型は、利用可能な技術と、獣医教育者や開業医を含む専門の協力者との協議に基づいて、特定のパラメーターを念頭に設計されました。これらの模型は、使用頻度、環境、監督、および期待値の面で設計パラメーターを超えて使用されてきましたが、より広範な使用に対応するために設計を調整しようとする、しばしば意図された限界を超えてしまいます。

ウマの分娩シミュレーション模型は、有資格の指導者の監督の下で、子宮内での不適切な胎位と、その後の操作による子ウマの適切な牽出体位への修正を練習することを意図しています。歪みや損傷のリスクを減らすために、牽引は最小限に抑えるべきです。子ウマを牽引する際は、損傷を防ぐために優しく降ろし、万一の落下に備え柔らかいマットを常に設置してください。

これらの模型は、すべてのガイドラインに従うことができる場合を除き、一般公開でのデモンストレーションを意図していません。重量がありながら繊細な構造のため、それに応じた取り扱いが必要です。本物の子ウマは出産時に外傷や荒い扱いを経験するかもしれませんが、この手順に耐えるのは一度だけです。この子ウマは、1日に数回出産手順を経験する可能性があります。適切なケアをすれば、大きな問題なく1000回以上子ウマを牽引した事例がありますが、たった一度の不適切な操作が取り返しのつかない損傷を引き起こす可能性があります。

長い間お使いいただけるよう、本書に記載されたケア、メンテナンスを行うことが大切ですが、常識的で適切な判断も重要です。

VSIは、製造上の欠陥に対して購入日から2年間の保証を提供します。この保証は、誤用、監督されていない取り扱い、保証期間後に現れる欠陥によって引き起こされた損傷は対象外です。保証期間後も、手数料と該当する送料を支払うことで、修理および再生することができます。

私たちは、シミュレーターの継続的な開発、改善、および使用におけるお客様からのフィードバックを大切にしています。実用的なシミュレーターは、現代の教育システムに不可欠であり、専門家皆さんの理解と協力で成り立っています。

ウマの分娩シミュレーション模型

3. ウマの経鼻胃挿管・静脈穿刺・筋肉注射シミュレーション模型

3.1 構成

ウマの経鼻胃挿管・静脈穿刺・筋肉注射シミュレーション模型 (1025593)

構成部品:

- ・鼻胃管ウマ頭部
- ・鼻胃管ウマ頸部 (皮膚カバー付き)
- ・鼻胃管用胃チャンバー
- ・静脈穿刺用液体
- ・静脈穿刺用液体リザーバー
- ・たてがみ
- ・予備の静脈

ウマの経鼻胃挿管・静脈穿刺・筋肉注射シミュレーション模型 スタンド付き (1025594) 構成部品:

- ・鼻胃管ウマ頭部
- ・鼻胃管ウマ頸部 (皮膚カバー付き)
- ・鼻胃管用胃チャンバー
- ・静脈穿刺用液体
- ・静脈穿刺用液体リザーバー
- ・たてがみ
- ・予備の静脈
- ・スタンド



3.2 模型の取り付け

スタンドを本取扱説明書の「4.2スタンド」に記載した手順に従って準備します。頸部取り付け用のスタンドアダプターを取り付けます。頸部の平らで幅の広い部分 (近位横断面) にある金属ブラケットに、スタンドアダプターのオス型をスライドさせながら接続します。頸部に取り付けたアダプターをスタンド側のアダプターに接続し、頸部をスタンドに取り付けます。

頸部をしっかりと取り付けした後、静脈に静脈穿刺用液体を充填し、皮膚カバーを装着します。静脈の充填と皮膚カバーの取り付けについては、本説明書の「3.5 皮膚カバー」の項目を参照してください。皮膚カバーを所定の位置に取り付けた後、頭部の背面にある金属製の棒を頸部の露出部にある差し込み口に挿入して、頭部を取り付けます。頭部と頸部の間に目に見える隙間がないことを確認してください。

次に、胃チャンバーをスタンドの支柱に取り付けます。チャンバーの開口部を頸部の基部と合わせ、ABS製バックリングプレートのできるだけ近くに配置します。頸部の基部には、経鼻胃管が胃チャンバーに入るための小さな開口部があります。必要に応じて、胃チャンバーに液体を入れ、匂いをつけることも可能です。チャンバーは、上部を緩めて石鹸水で洗うことで簡単に清掃できます。

スタンド、経鼻胃管用頸部、経鼻胃管用頭部、胃チャンバーがすべて設置されれば、使用準備完了です。

3.3 頸部

頸部は、内部のスチール骨格と、それに支えられた柔軟なウレタンフォームで構成されています。頭側の面には、鼻胃管ウマ頭部の接続に使用するメス型ブラケットがあります。横断面にあるメス型ブラケットはスタンドまたはウマ本体に取り付ける際に使用します。スタンドへの取り付け時は、スタンドアダプターをウマの頸部の背面にあるメス型レシーバーに挿入します。スタンドアダプターの角型チューブは、頭部にある角型チューブブラケットに差し込み固定します。安定性を高めるために、頸部の六角ネジを締めてください。スタンドの組み立てと操作は、「4.2スタンド」に記載しています。

鼻胃管ウマ頭部・頸部の複合体をウマの本体に取り付ける際は、頸部からリザーバーに向かうホースが、本体の右前側にある穴、チューブを通過することを確認してください。本体の角型チューブは、取り付け時にホースを挟まないように注意しながら、頸部の対応する大きな角型チューブに慎重に挿入する必要があります。頸部が所定の位置に固定されたら、ホースを体腔内のリザーバーバッグに接続できます。リザーバーバッグを吊るすためのDリングが、前部内部隔壁の左側にあります。

鼻胃管ウマ頸部は、筋肉注射と静脈穿刺の両方の機能を備えています。筋肉内注射部には、ウレタンフォームパッドを挿入するための台形の切り欠きが設けられています。パッドは、数百回の穿刺に耐え、注射の液体を吸収できるように設計されています。パッドが摩耗した場合には、交換用パッド (1025600) をご利用いただけます。

静脈穿刺部には、頸静脈溝領域に2つの空洞が設けられています。これらの空洞には厚手で柔らかいシリコンゴム製の開放側チューブが収納されており、これが頸静脈内の緩衝材として機能し、シリコン皮膚への穿刺を防ぎます。頸静脈には交換可能なラテックスチューブが使われており、シリコン裏地の管状の溝に収まります。ラテックスホースは、頸部の尾側横断面で逆止弁コネクターを介して液体リザーバーに接続されています。ホースとコネクターには小さなラテックスバンドが巻かれており、ホースを確実に押さえ漏れを防ぎます。

ウマの分娩シミュレーション模型

同様に、頸部の頭側横断面では、ラテックスホースがプラスチック製のバーブ付きコネクターを備えた縮小コネクターに取り付けられています。透明ビニールチューブの短い部分がバーブ付きコネクターに接続され、頭側端はプッシュ式の空気抜き/ブリーダーバルブで密閉されています。静脈の尾側端は、逆止弁付きコネクターを介して透明ビニールチューブに接続され、バーブ付きT字型コネクターでリザーバーからの単一のラインに結合します。

静脈穿刺液リザーバーは、単一の供給ライン用の内蔵コネクターを備えたビニール製の袋です。このコネクターには自動遮断弁が使用されているため、リザーバーを空にすることなく、液漏れさせずに取り外すことができます。

リザーバーには、静脈を充填するためにリザーバーを加圧するポンプが備わっています。重力に逆らって、自然な静脈圧を再現できる程度の圧力のみを加えてください。過剰な圧力は静脈漏出を引き起こす恐れがあります。練習終了時は、ポンプの解放ボタンを押して圧力を解放してください。リザーバーは磁気フックで吊るされており、スタンド上の任意の位置に配置できます。

3.4 静脈

頸静脈は、長さ50cmの薄壁ラテックスチューブで再現されています。このチューブは、穿刺による損傷が蓄積し、漏れや滲出が生じ始めた時点で別売りの交換用血管と取り換えてください。血管のラテックスは紫外線に弱いので、交換用血管は、光を避け、涼しく乾燥した環境で保管してください。

模型に使用する血液として水道水をそのまま使用することもできますが、1リットルの濃縮模擬血液を使用することでよりリアルな練習が可能です。濃縮模擬1に対し、最大で水3の割合で混ぜて使用できます。特に血管が閉塞されている場合に、模擬血液に含まれる成分により、針の穿刺による漏れを軽減します。濃縮模擬血液も交換品としてご用意しております。

穿刺時の針が内側の静脈壁を貫通するのを防ぐため、静脈の裏側には厚いシリコン製インサートが配置されています。このシリコン製インサートも交換可能ですが、数百回の穿刺に耐えることができます。交換の際には、手で単に引き抜くことで簡単に取り外すことができます。

静脈に液体を充填するには、まずリザーバーバッグに所定の液体を満たし、スタンドのメイン支柱の上部にあるフックに吊るします。血管を頸静脈溝に挿入して、全てのラインを接続します。血管および各チューブの内部は密閉状態になります。ウマの頭部を取り外した状態で、血管の頭側端にあるリリースバルブを押し、バルブを開いたままにします。皮膚を横断面で前方へ巻き上げると、血管が満たされていくのを見ることができます。血管が満たされたら、バルブを放して流れを止めます。リリースバルブを開いても液体が血管に入らない場合は、リザーバーバッグを優しく圧迫し、サイフォン作用により流れ出すのを促してください。

血液を排出する必要がある場合は、血管を両端にある逆止弁付きコネクターから取り外してください。交換などの為に血管を取り外す際には、皮膚を取り外し、両端のコネクターから血管を抜いてください。

3.5 皮膚カバー

皮膚カバーには伸縮性のある素材が使用されています。たてがみの成長線に沿って、たてがみを取り付けるための面ファスナーが付いています。血管や筋肉注射パッドを挿入および交換するには、皮膚カバーを取り外す必要があります。

皮膚カバーの取り付けは、頸部をスタンドに設置、すべての構成部品が組み立てられ、血管が満たされ、ウマの頭部が取り外された状態で行うのを推奨しております。皮膚カバーを取り付ける際は、頭部を取り外し、セーターを着るように頸部からかぶせるように取り付けます。本体に密着するようにし、適切に装着されると、折れやテント状の浮き上がりはほとんどありません。ウマ本体で頸部を使用する際は、鼻胃管ウマ頭部・頸部の複合体を本体に取り付ける前に皮膚カバーを取り付けてください。

頸部に使用されているゴムとフォーム素材は、紫外線と酸化に弱いので、使用していないときでも皮膚カバーをつけたままにして保護してください。頸部のゴム製カバーは、経年劣化で黄色く変色することがあります。



ウマの分娩シミュレーション模型

4. スタンド

4.1 頭部

鼻胃管ウマ頭部はゴムでコーティングされたフォーム素材で構成され、内部には金属製の骨格と露出した角型チューブブラケットを備えています。このブラケットを頭部のレシーバーにスライドさせながら接続します。頭部には開口部があり、馬勒（ブライドル）の装着が可能です。頭部を適切に配置することで、頭部の皮膚カバーが固定されます。血管を充填するためのリリースバルブへのアクセスや、頭部から皮膚カバーの取り外す際には、頭部を取り外す必要があります。

両方の鼻孔から経鼻胃管を挿入できます。潤滑は必須ではありませんが、必要に応じて使用できます。チューブの向きによっては、上鼻腔または気管に入る可能性があります。どちらの場合も、チューブは行き止まりに突き当たるので、ここで再調整してください。

チューブが下行していくと、食道への入り口を通過します。胃室に到達する前に、首の付け根に目に見える膨らみができることで、通過を確認できます。

4.2 スタンド

スタンドは、高さ、ヘッドの角度（前後）を調整でき、片側に90度回転させることができます。

スタンドの組み立て手順は以下の通りです。

土台の準備:

- 土台を、車輪側を下にして平らで頑丈な面に置きます。
- 支柱差し込み口上部のボルトと蝶ナットを外し、取り付け口を開放します。下部のボルトと蝶ナットは緩めず、確実に固定されていることを確認してください。この部分で支柱を支えます。

支柱の取り付け:

- 支柱取り付け口に支柱を差し込み、下部のボルトに乗るように設置します。
- 上部の穴からボルトを通し、支柱を固定します。
- 支柱取り付け口に支柱を差し込み、下部のボルトに乗るように設置します。
- 上部の穴からボルトを通し、支柱を固定します。

ハンドルの取り付け:

- 支柱が固定出来たら、ハンドルにあるボルトと蝶ナットを外します。
- 支柱上端からハンドルの四角の接続口を通し、ハンドルを取り付けます。

ハンドルの高さ調整:

- ハンドルを希望の高さまで下げ、先ほど取り外したボルトと蝶ナットで固定します。
- ハンドルの高さ、頭部の角度を調整する場合は、ボルトと蝶ナットを外してご希望の位置に合わせた後、再度ボルト・蝶ナットで固定してください。

最終確認:

- 模型をスタンドに取り付ける前に、すべてのボルトが絞められていること、車輪がロックされていること、スタンドアダプターが模型に取り付けられていることを確認してください。

頭部は、まずボルトと蝶ナットでご希望の位置で固定します。頭部には、角型チューブブラケットがあり、ここに調整アセンブリの対応するチューブを接続します。所定の位置に合わせたのち、ハンドークランクを使用して頭部の傾きを調整します。頭部を右に90度回転させるには、ロックピンを外し、慎重に頭部を回転させてください。

使用中は、スタンドが移動するのを防ぐために、車輪のホイールロックを下向きに押して、固定してください。スタンドには塗装やメッキを施した金属部品とプラスチック部品を使用しており、湿気に耐性があります。しかし、不必要な腐食を防ぐために、スタンドは常に屋内で保管し、乾燥した状態を保ってください。

スタンドのクランクマウントに、付属アダプターをスライドさせ接続します。続いて、鼻胃管ウマ頭部をアダプターにスライドさせながら接続すれば使用可能になります。このプロセスで何か問題が発生した場合は、遠慮なくご連絡ください。



ウマの分娩シミュレーション模型

＞ お問い合わせ先



日本スリービー・サイエンティフィック株式会社

〒950-1135 新潟県新潟市江南区宮野木2丁目5番18号

 **0120-300-056** (ユーザー様専用)

受付：9:00～17:30 携帯・PHSからご利用いただけます

TEL : 025-282-3228

FAX : 025-282-3229

WEB : www.3bs.jp

e-mail : info@3bs.jp